

国際生命情報科学会(ISLIS) 創立 30 周年記念行事

ISLIS 主催 第 59 回生命情報科学シンポジウム

開催日: 2025 年 3 月 29-30 日(土-日)

大会長: 河野 貴美子 ISLIS 副会長

開催地: ビジョンセンター東京日本橋 401・601 号室

<理事長講演>

連携と人財の結集を

－ ホリスティック医学・不思議の科学の拠点,

国際生命情報科学会(ISLIS)・国際総合研究機構(愛理 IRI)・

世界一の「潜在能力科学研究所」・「いやしのビル」へ －

山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)

(Mikio YAMAMOTO, Ph.D., Ph.D.)

国際生命情報科学会(ISLIS) 理事長・編集委員長,

科学平和文化財団(SPC-F) 理事長, 国際総合研究機構(愛理 IRI) 理事長,

「潜在能力科学研究所」創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長 (千葉, 日本)



要旨: 当 国際生命情報科学会(ISLIS)は,2025 年に創立 30 周年記念行事として,少なくとも,次の 2 回の「ホリスティック(全人的)医学と不思議の科学」を主テーマとする「生命情報科学シンポジウム」を主催する.第 59 回は河野貴美子副会長を大会長としてビジョンセンター東京日本橋にて 3 月 29-30 日(土-日)に開催.第 60 回は帯津良一会長を大会長として,錦鯉が 40 匹も泳いでいる庭園付の大抵宅伊豆高原「華水月」を借り切って,第 17 回の合宿形式にて 8 月 8-11 日(金-月)に開催予定で,企画・演題・参加者を募集中.

これらに多くの方の講演・発表・セミナー・ミニシンポ・実技指導披露等の応募と参加を望み,募集中.

ISLIS は,その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた NPO-IRI/科学平和文化財団(SPC-F)・国際総合研究機構(愛理 IRI)と共に,愛理 IRI-「潜在能力科学研究所」を創設し,大型「いやしのビル」を建設し,「ホリスティック(全人的)医学・不思議の科学」を含むこの分野の世界一の拠点に育てたい.企画,構想,連携や 2025 年中に 100 名の人財を公募中で,良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい.このために現本部および近辺に数カ所のスペースを既に借増し,小型ビルの建築確認済証も発行され,超大型ビルを含む大型ビル 3 棟の企画設計もまとまった.ところが綺麗で有能な各種人財の結集を望んでおり,自薦・他薦を期待している. また,大学等や国立系研究機関等との連携を模索しつつある.

ISLIS の設立趣意は,物質中心の科学技術から,こころや精神を含んだ 21 世紀の科学技術へのパラダイム・シフト(枠組革新)を通じ,真理の追究と共に,人間の「潜在能力」の開花により,健康,福祉,教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ,自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である.

ISLIS は 1995 年の創立来 29 年半,現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング,気功,潜在能力,超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た.この間に生命情報科学シンポジウムを,海外での開催や 16 回の合宿形式を含め 59 回主催し,英文と和訳付の国際学会誌 *Journal of International Society of Life Information Science* (J.Intl.Soc.Life Info.Sci. or *Journal of ISLIS*) を年 2 号刊行し,総計 7,000 頁以上の学術論文と発表を掲載してきた.

この間に,不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた.しかし,その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない.今後共,これに大いに挑戦したい.

本学会は現在,世界の 11 カ所に情報センターを,15 カ国以上に会員を,擁している.

キーワード: ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, ISLIS, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 IRI, アイリ, 科学平和文化財団, SPC-F, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, 平和, 幸福

<会長講演>

生と死の統合社会を目指して

帯津 良一 医学博士,医師

国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長

日本ホリスティック医学協会 名誉会長, 帯津三敬病院 名誉院長 (埼玉, 日本)



要旨: 前回の会長講演のなかで、人間一人をまるごと見ているだけではなく、場の階層を成す素粒子から虚空までのすべてを手中に収めて始めてホリスティック医学であると申し上げた。今回はそのホリスティック医学の対象である人間まるごとを時間的に考えてみたのである。まずは医療の本質について考えると、これは患者さんと治療者が寄り添い合うことに尽きる。体で寄り添い、心で寄り添い、命で寄り添うのである。命で寄り添うためには死を命のプロセスの一つと考えるのである。こうして死後の世界の道程が見えて来ることによって始めて命と命が寄り添い合えるのである。

つまり、この世だけではなく、あの世もしっかりと視野のなかに入れてのホリスティック医学なのである。この世にあるうちに死後の世界に期待と展望を以って歩を進めるのが生と死の統合。そしてすべての人が生と死を統合する社会こそホリスティック医学の究極である。

キーワード: 医療の本質, 寄り添い合う, 命で寄り添う, 死後の世界, 生と死の統合, 生と死の統合社会

連絡先 : 帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<大会長講演> 大会長 未定

<常務理事講演>

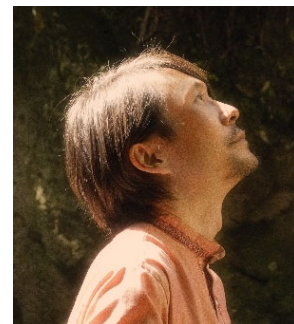
アーユルヴェーダの世界観 IV —生命を貫く原理—

青山 圭秀

国際生命情報科学会 (ISLIS) 常務理事

日本アーユルヴェーダ学会 理事 (東京, 日本)

カリフォルニア州立大学 元客員教授



要旨: 私たちの住むこの世界には常に、状態を維持し、安定したいという力が働いています。17 世紀、ニュートンが他に先んじて「運動の第一法則」と呼んだ「慣性の法則」や、「ポテンシャルエネルギー極小の法則」がこれに当たります。一方、自然界には、それに反するかのように、静止することを嫌う性質もあります。19 世紀から 20 世紀にかけ、この原理は「局所エントロピー増大の法則」や、さらには「不確定性原理」として結実しました。

この世界を貫くこれら二大原理は一見矛盾していますが、私たちの宇宙には実に、局所的には複雑さを増しながら、かつ高度な秩序を構築するというもう一つの原理が働いています。私たちが「生命」と呼ぶこの現象が宇宙に現れる確率は非常に小さく、それがさらにこうして高度な進化をする確率はゼロに近いともいわれますが、宇宙には実際に生命が育まれ、進化してきました。

量子力学の創始者の一人である E・シュレーディンガーが「負のエントロピー」と呼んだこの原理を、太古の生命の科学・アーユルヴェーダと、その基盤を成すサーンキヤ哲学はどのように知り、扱ってきたのでしょうか。講演では、これを繙くなかで、宇宙創成の過程、創造の原理について考えてみたいと思います。

キーワード: アーユルヴェーダ, サーンキヤ哲学, トリグナ説, エネルギー, エントロピー

連絡先 : 青山 圭秀 maria@art-sci.jp

<常務理事講演>

ピラミッドパワーの科学的研究 (2007 年 10 月～2025 年 3 月)

高木 治, 河野 貴美子, 山本 幹男

国際総合研究機構(IRI), 科学平和文化財団(SPC-F) (日本, 千葉)

要旨: 我々は 2007 年 10 月以来,ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) を実証するため,厳密に科学的な実験を続けている.実験ではバイオセンサ (キュウリ切片) を,PS 頂点と頂点から 8m 離れた校正基準点 (コントロール) に 30 分間置き,その後バイオセンサを密閉容器に移し,48 時間程度保管した後,容器内に放出された揮発成分 (ガス濃度) を測定した.我々が行ったピラミッドパワーの実験は,主に次に示す 2 種類の実験である.I)「ピラミッドパワー実験 (PP 実験)」: PP 実験は,PS 自体が潜在的に持っている,いわゆるピラミッドパワーを検出する実験である.II)「瞑想実験」: 瞑想実験は被験者が PS 内に入り瞑想 (ヘミシング) を行う実験であり,また瞑想中と比較するため,瞑想前と瞑想後の時間帯でも,PS 頂点にバイオセンサを置いて実験を行った.本講演は主に I)の PP 実験の結果について報告する.我々が PP 実験によって実証した内容は,主に次の 5 点である.1) PS のピラミッドパワーの存在を明らかにした (1%有意で実証: 夏期データ).2) PS のピラミッドパワーが,PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサに対して,下段と上段で異なることを明らかにした (ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数 Ψ が,下段のバイオセンサに対するサイ指数 Ψ は -3.01 でマイナスの値,上段に対するサイ指数 Ψ は 5.52 でプラスの値となり,下段と上段で有意差を得た, $p=4.0 \times 10^{-7}$).3) PS の潜在力の詳細な解析の結果,バイオセンサ間の絡み合い (Bio-Entanglement) と考えられる現象を明らかにした.4) PS のピラミッドパワーは季節変化をしないこと,また Bio-Entanglement の効果は季節変化をすることを明らかにした.5) PS のピラミッドパワーが,バイオセンサの特性であるガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えることを明らかにした.ピラミッドパワーに関する研究は,未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中,我々の実験結果は,この分野において世界初の研究成果である.今後この成果が一般に広く認められ,科学における新たな研究分野となり,幅広い応用の可能性が期待される.

キーワード: ピラミッド,潜在力,瞑想,ヘミシング,バイオセンサ,キュウリ,ガス,サイ指数,Bio-Entanglement

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール: takagi@a-iri.org

<研究発表>

バイオセンサの概日リズムと睡眠状態 (Biosensor's circadian rhythm and sleep state)

高木 治, 河野 貴美子, 山本 幹男

国際総合研究機構(IRI), 科学平和文化財団(SPC-F) (日本, 千葉)

要旨: 我々はピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー (ピラミッドパワー) の研究を,2007 年 10 月から続けている.そしてバイオセンサ (食用キュウリ切片) を使用した厳密に科学的な実験によってピラミッドパワーの存在を実証してきた.また,バイオセンサから放出されたガス濃度の解析によって,バイオセンサの特性も明らかにしてきた.その結果,バイオセンサから放出されたガス濃度の概日リズムが,季節によって変化することが分かった.つまり 1 日の内で,ガス生成反応の活発化や不活発化する時間帯が周期的に繰り返されるが,その周期が季節によって変わることが明らかとなった.概日リズムの一周期は,冬では 8 時間,春では 6 時間,夏では 24 時間,秋では 12 時間と 24 時間の混合リズムであることが判明した. また,同じ 1 周期が 24 時間の概日リズムをもつ夏と秋とでは,概日リズムの位相が 4 時間程度ずれていた.このことから,概日リズムの周期は同じであっても季節の変化によって位相が変化することが判明した.睡眠に関しては,これまで脳を持っている動物しか眠らない,という説が一般的であったが,最近脳を持たないクラゲも眠っていることが報告されている.クラゲの傘の開閉運動を昼と夜で比較し,夜の運動が昼に比べて緩慢に

なることを明らかにした結果である。そこで我々は、クラゲ同様、脳を持たない植物（キュウリ）に関して、周期的に変化する概日リズムとは別に、年間を通してガス濃度が少なくなる時間帯があるかどうかを解析した。季節によって概日リズムの周期が異なることから、概日リズムの位相は当然ばらばらであった。しかし午前 2:00 頃に、ガス濃度の位相が全て谷の部分（極小値）となることを見出した。従って我々は、バイオセンサは、季節変化する概日リズムを持つ一方、季節に関係なく年間を通して午前 2:00 頃にガス生成反応が極端に減少する時間帯があると理解した。そして日本のことわざ、「草木も眠る丑三つ時」とあるように、キュウリが午前 2:00 頃に、睡眠状態にあると結論した。

キーワード：バイオセンサ,キュウリ,概日リズム,ガス,睡眠

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉県市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-5482 電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献

- [1] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Discovery of Seasonal Dependence of Bio-Reaction Rhythm with Cucumbers. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 163-175.
<https://www.researchgate.net/publication/331917254>
- [2] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Relationship between Gas Concentration Emitted from Cut Cucumber Cross Sections and Growth Axis. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 153-167.
<https://www.researchgate.net/publication/331917255>
- [3] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Seasonal Changes in the Circadian Rhythm of Gas Released from Harvested Cucumbers. Natural Science, 14, 503-516.
<https://doi.org/10.4236/ns.2022.1411045>

<研究発表>

日蓮遺文の物質/生命論的解釈とホワイトヘッド中期哲学中の概念との類似性

岡田 真一 博士（理学）,臨床心理士）

科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理,IRI)（日本,千葉）

要旨：デカルトの心身二元論は、時代を経て産業革命（機械文明の勃興）以降、「心」は小さくされ、「身」は機械論的に扱われるようになった。その結果が 20 世紀の 2 度の世界大戦（メガデス）だった。だが、“機械のような「身」” 概念は、むしろ分子生物学,ロボット工学,遺伝子工学,AI 技術の驚異的な進歩によりますます補強されてしまい、肥大化した「機械論的生命観・世界観」が浸透し、それらをベースとした物質主義がまかり通っている始末である。21 世紀に入り 20 年以上経った今、戦火はむしろ拡大し、この物質主義を母体として生み出された新自由主義（弱肉強食,利益・効率の最大化こそ最高善）の嵐が各国で吹き荒れ、殺伐とした生命観・世界観を人々に押し付けているかのようだ。発表では、日蓮遺文（御義口伝の冒頭部分）およびホワイトヘッドの著作（自然認識の諸原理）から、これら 2 つの文献に示される物質・生命観の類似性を述べ、現況の行き詰った生命観・世界観を覆せる可能性と人々の近未来のそれらの在り方を論じたい。

<日蓮遺文（御義口伝）の冒頭部分から>

「南無妙法蓮華經 御義口伝に云く南無とは梵語なり此には帰命と云う,人法之れ有り人とは釈尊に帰命し奉るなり法とは法華經に帰命し奉るなり又帰と云うは迹門不變真如の理に帰するなり命とは本門随縁真如の智に命くなり帰命とは南無妙法蓮華經是なり,釈に云く随縁不變・一念寂照と,又帰とは我等が色法なり命とは我等が心法なり色心不二なるを一極と云うなり,釈に云く一極に帰せしむ故に仏乗と云うと」(<https://gosho-search.sokanet.jp/page.php?n=708> から引用した)

<ホワイトヘッドの著作（自然認識の諸原理）から>

「自然には、いわば互いに相容れず、しかも互いに本質的な二つの側面が存在している。一方の側面は、創造的前進（creative advance）における発展、つまり自然の本質的生成性（becomingness）である。他方の側面は、事物の永続性（permanence）、つまり自然が再認識されうという事実である。かくして、自然は常に新しくも古くもない諸々の対象（object）と関係している新しさなのである。」

（Whitehead, A. N. [1919/1982] An Enquiry Concerning The Principles of Natural Knowledge, Dover Publication inc.,p.98, 和訳は、ホワイトヘッド哲学における生成と主体、森元斎、年報人間科学. 2010, No.31, p1-14. から引用した）

キーワード：機械論的生命観・世界観,因果と縁起,自然の 2 つの側面,汎心論

連絡先：Tel:090-6521-7951 E-mail：qqpd2dy9n@feel.ocn.ne.jp

<一般発表>

鹿との平和的共生方法

橋爪 秀一

Idea-Creating Lab (日本、横浜)

要旨: 縄文時代から、日本人は鹿に対して可愛らしい、高貴である等の好印象を持っており、神使或は神獣として崇めてきた。しかし、2022年には年間約57万頭の鹿が害獣として駆除されている。

今回の発表は、ニュージーランド、台湾、モンゴル、スコットランド、中国及びドイツにおける鹿との付き合い方について報告し、鹿との共生方法について考察したい。日本では、鹿との共生方法に関しては、多々試行はしているが、鹿を柵により締め出すこと以外の方法では、優れた効果が認められないのが現状である。我々は銃或いはワナのような過激な手段での鹿との共生ではなく、平和的な鹿との共生を求めている。最近、六甲山のイノシシには毛繕いに関してルールが存在し、そのルールを守っていることが明らかになった。これは、イノシシ社会にはルールがあり、イノシシはそれを学ぶ学習能力があることを示している。この学習能力を利用した鹿との共生方法を考えたい。更に、将来的には、この平和的な鹿との共生方法を、自然、動物、植物、他国など様々な対象との共生に如何に生かすかも模索していきたい。

キーワード: 鹿, 害獣, ルール, 学習能力, 共生

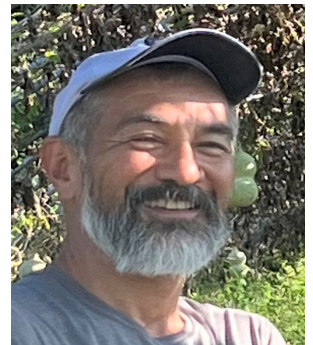
橋爪 秀一, 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303 電話・Fax. 045-783-2510 E-mail: hashizume.shu@nifty.com

<一般講演>

Holistic Sync ～ テクノクラシーへの対処方

荒井 紀人

科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理 IRI) (日本、千葉)



要旨: 世界経済フォーラムは「グローバルリスク報告書」を発表し、2025年度は国家間の武力紛争や地政学上の対立、誤報と偽情報、異常気象や社会の二極化のリスクが高いと評価した。これらリスクの短期・長期的解決策として、IT&AIの活用は大前提になっているが、同時にテクノロジー自体が及ぼすリスクも決して無視できない。今後、ナノ・バイオ・神経・デジタル技術が融合し、物のインターネット (IoT) から身体インターネット (IoB) へと進むことは既定路線であり、トランスヒューマニズムが進化のベクトルを指し示すだろう。人間よりも AI による価値判断や意思決定が重んじられることが、我々にとってどんなインパクトを持つのかは未知数だ。

グローバル裕福層が推進する、デモクラシーに代わるテクノクラシーのアジェンダの社会的な実装によって、失業や不平等、貧富の二極化、人権・自由の侵害、検閲と監視、健康被害や環境悪化などのリスクが高まることが、世界中の市民から懸念されている。官民複合体のテクノクラートが、マクロ～ミクロに自然環境、社会、個人、身体、物質までをトータルに制御・支配するために、通信技術や社会工学においてグローバルなシンクロを用いることは、その方法の核心部である。そこで、グローバル・シンクロを多角的に分析し、特にその、時間論的な特性と限界を明らかにすると共に、テクノクラシー/トランス・ヒューマニズムを超える突破口となるコンセプトとして、「ホリスティックなシンクロ」を新たに提示しつつ、より平和的なネクスト文明開花のためのホリスティックな対処方を探る..

キーワード: 物のインターネット (IoT), 身体インターネット (IoB), テクノクラシー, トランスヒューマニズム, グローバルなシンクロ, ホリスティックなシンクロ

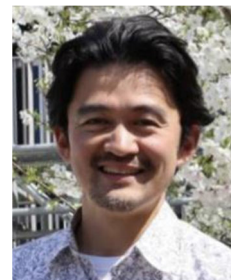
荒井 紀人: 科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理 IRI)

<一般講演>

自然に寄り添う食, 文化, オーガニックな農業が織りなす地域再生

伊藤 淳

科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理 IRI) (日本, 千葉)



要旨: 私の実体験をもとに食文化, 自然農法, オーガニック農業が相互に連携し, 地域再生に貢献する可能性を探ります. 荒廃農地, 家屋のゴミ屋敷化, それと同時に食への意識低下から来るアレルギー, 自律神経失調症といった心理的な要因等の課題に対し, 現代の日本の食と自然農業を軸とした視点から考えたものを提示します. 足元の土(微生物)をどのように扱えば, 世界中の農業が持続可能で, 農民が富み, 食糧問題, 環境問題への希望がもてるのか. AIなどの現代のテクノロジーはバランス良く取り入れながら, 太古の知恵や環境保全型農業を導入することで, 土壌回復を促し自然と人間の健康をとりもどし, 神社仏閣等のコミュニティ文化的価値, 地域の人間力, 資源の活用を通じて, 平和で, 豊かな調和が織りなすコミュニティ創造へのきっかけの1つとなれば嬉しいです.

キーワード: 自然, オーガニック, 自給自足, 食, 健康, 地域再生, 土, AI, コミュニティ, 資源, 人間力, 調和環境問題, ゴミ屋敷, 不用品, アレルギー

伊藤 淳: junitojunito77@gmail.com

<一般講演>

自然栽培から学ぶ医者にもクスリにも頼らない生き方

河名 秀郎

(株) ナチュラル・ハーモニー代表取締役 自然栽培全国普及会 会長 (日本, 横浜)



要旨: 近年農地において, 農業にたいして耐性をもったウイルスや細菌, 害虫, 雑草の存在がのびのびと増えている. もはや彼らと闘ってもイタチごっこでしかなく, 勝つことのできないことは自明の理である. それは人体においても然りで, 同様の事象が人類を脅かしている. しかし一方で自然栽培においてはウイルスや細菌, 害虫は地球の秩序の乱れを浄化する役割があると, それらと闘うよりも秩序の乱れを解決することの重要性を説いている. まさに人間サイドから見る視点と自然サイドから見る視点は真逆と言っていい. 私たちはこれからもウイルスや細菌, 害虫と闘い続けるのか, それとも彼らを地球の掃除屋として受け入れるのか, この判断次第で人類の歩みは大きく変わってくるであろう. このシンポジウムでは自然栽培法から自然と調和した本来あるべき人としてのあり方を考えてみたいと思います.

キーワード: 自然栽培 自然の摂理 脱善玉悪玉 闘わない生き方 ハーモニックライフ

河名 秀郎: hide@naturalharmony.co.jp

<一般講演>

生命力を高める心身技法と共鳴場

小原 大典

時間芸術学校クリカ校長, チベットサポート・クリカ代表 (日本, 東京)



要旨: 天真体道(新体道)創始者・青木宏之氏のもとで体験した「遠当て」を含む多様な氣の世界, 江本勝氏と共に行った「水の結晶実験」, 更には生命情報分析器(BA)を用いたウォーターセラピー(波動測定)の現場で見続けて来た改善事例など, 唯物論的な世界観では理解しがたいそれらの現象の背後にある法則性を掴むのに役立ったのが, マヤ暦研究家ホゼ・アグエイアス氏によるフラクタル&ホロンの時間論でした. マヤの循環的時間観だけではなく, チベット仏教の影響も色濃く見られるその研究の集大成とも言える「13の月の暦」は, 時間と心に対する認識の変革を迫るようなシンクロニシティ体験をもたらします. 今回, こうした体験を包括的に理解するのに役立つ世界観(精神宇宙モデル)を提示しつつ, バックミンスター・フラーの Do more with less にインスピレーションを得て開発した心身共鳴統合シス

テム「レインボー・i」(Rainbow integrity) の概要をご紹介します。また、一人一人が自らの生命力を高めることを通じて「地球の生命場」の活性に貢献する、という可能性についても考えてみたいと思います。

キーワード：時間,共鳴,シンクロシティ,氣,波動,テンセグリティ,靈性

連絡先：ise@kulika.com

<一般講演>

世界最洗端クリーニング技術追求から見たきたもの ・家庭菜園から孫の誕生物語

木内 茂二

次世代クリーニング研究所 エコショップ *ecom* 代表、西川株式会社 寝具洗淨アドバイザー
全国クリーニング生活衛生同業組合 講師 (日本,東京)



要旨：ドライクリーニングに使用される溶剤は 3 種類。石油を精製したもの、塩素を合成したもの、フロンを液化したものです。すべて人体や環境に程度は異なるが悪影響を及ぼし、塩素合成のパークロルエチレンは発がん性物質。欧米で使用禁止が始まるが我が国では対応が出来ていない。関西万博で人間洗濯機が展示されるが総理と厚生労働大臣の洗濯を促したい。脱溶剤に向けてクリーニング従事 32 年の私が作りました！「ドライクリーニング指定品を水で洗う洗淨システム」業界用語でウェットクリーニングと称しています。デリケートなカシミアコートを洗っても 1mm も縮まない。着心地も抜群。このところ私共のホームページへ世界中からのアクセスが増えてきているところをみますと普及を急ぎたいところで、経済産業省や商社の力添えが必須。クリーニングの研究をしながら水がどのようなものが興味を持って探求していると何と情報を記憶するようである。ビタミン・ミネラルに留まらずアレルギー物質。雪の結晶は綺麗な六角形ですが、この形状を記憶しておりそれが生理活性に働き雪深い地域のお米の美味しさの基盤となっているのでは。川の上流の水は、つなぎ不要でお蕎麦が打てる。最下流になると「ふのり」を入れないとつながらない。水の何が関与しているのか。小学 5 年生の時ひよこを飼っていてやがて成長し卵を産んだ。入力側の餌と出力側の殻がカルシウム、中身が蛋白質の黄身と白身で構成された成分に合点がいかない。40 年後、疑問が解けた。

家庭菜園をしており 10 数年前に農業教室で「固定種 & 在来種と一代交配種がある」と教えられました。固定種で栽培したところサイズはまちまちでありながらも味は抜群でした。嫁いだ娘に子供が出来ず群馬大学病院で治療を開始するも成果があがらず、採れた野菜を送って食したところ治療と相乗的に働き妊娠し子供が誕生した。ビタミン・ミネラル・カロリー等々に加え核酸・・・次の代を担うための情報も食から得ているのではと推測します。

子供手当の前にするべきことがある。種がもたらす生命誕生との関係性の研究。農林水産大臣も人間洗濯機送りか・・・

キーワード：木内茂二,次世代クリーニング研究所,ウェットクリーニング,お洗濯教室 *ecom*

連絡先：〒134-0084 東京都江戸川区東葛西 5-16-12 TEL:03-3868-2963 FAX:03-3868-3113

HP : <https://www.cleaninglab.jp/> E-mail : kiuchicleaning@hotmail.co.jp

<一般発表>

東洋医学的治療による身体の変化 主に指圧、圧力に着目して

野村 明子

有限会社 日吉堂 (日本, 京都)

要旨：東洋医学の施術である鍼灸按摩指圧マッサージの中で、鍼灸理論は分かってきたことが多いが、按摩指圧マッサージの理論についてはまだまだ曖昧である。なぜほぐれるか？身体はどのように変化するか？

経絡指圧師であった増永静人先生の経絡概念を基に、主に指圧に着目し、身体の変化について考察いたします。

キーワード：指圧,経絡,氣,水,原形質,ゾルゲル

連絡先：野村明子 有限会社 日吉堂 京都市東山区紫園町北川 347 E-mail: turip.ahn@icloud.com

<一般発表>

自己分析による潜在意識へのアプローチ

仲村 龍一郎

潜在意識の調整コーチ

要旨：潜在意識は、人生経験を通じて形成される思考パターンと深く結びつき、感情や行動、意思決定に大きな影響を与えています。私は自己分析とヒーリングを軸としたコーチングを通じて、潜在意識へのアプローチをしてきました。その結果、自己理解を深めることで自己肯定感を高め、より心地よい成長環境を築く上で重要であるを実感しました。

この経験から、一人一人が自分自信と向き合う方法を身につけることが、心身ともに健康でイキイキと活躍できる社会の実現に繋がると考え、その可能性を考察させていただきます。

キーワード；潜在意識, 思考, ヒーリング

連絡先：ryu335576@gmail.com

<講演>

ワンネスの時代-科学・医学・文化・社会におけるつながりと統合の意識

叶 礼美

非営利型一般社団法人 国際生命意識協会 代表理事

カリフォルニア州政府認可スクール・オブ・スピリチュアリズム ワンネスインスティテュート 代表

要旨：「ワンネス-生きとし生けるものはつながり、ひとつの生命であり、互いに影響を及ぼしあって存在している」という概念は、医学、科学、文化、社会など多方面で受け入れられつつあります。医学の分野では、瞑想や共感が「つながりと愛情のホルモン」として知られるオキシトシンの分泌を促し、人類の調和やワンネスの実現に貢献することが示された英論文（高橋徳・叶）が掲載されました。これは、社会のさまざまな領域で問題となっている分離や分断をつなぎ直す概念として、ワンネスの思想が科学的にも検証されはじめた証といえるのではないのでしょうか。また、霊性やエネルギーといった概念も言及されており、それらが健康や社会の在り方に望ましい影響を与える可能性を示唆しています。量子力学においても、「量子もつれ」や「ホログラフィック宇宙論」が、宇宙のすべてがつながっていることの理論的な裏付けを提供しています。さらに、古代から続く文化や宗教においても、ワンネスの思想が見られます。仏教の「縁起」、神道の「八百万の神」、スーフィズムの「神との合一」などは、個々の存在が全体とつながっていることを示唆しています。また、古代文明や原始宗教においても、自然を大いなる理（ことわり）として崇敬し、生命のつながりを大切にす思想が根付いていました。前回の講演では「現代の処方箋-スピリチュアリティとワンネス思想」をテーマとしましたが、今回は「ワンネス」の原理と、生命を第一とする価値観が人々の意識変容を促し、選択や行動が変化することで、医学、科学、文化、経済、政治、社会に変化をもたらす可能性について探ります。こうした意識的な取り組みが、地球文明の本来的な生命の回復と調和的な成長・進化へとつながるのではないのでしょうか。本講演では、「ワンネスが示す未来の可能性」について、多角的に考察していきます。

キーワード：

連絡法：国際生命意識協会 office@lifeconsciousness.org

<ワークショップ>

シンギングボウルの共鳴現象・人と場のワンネスを考える

佐藤 克巳

佐藤整体院長（日本、千葉）



要旨：ワンネスは、全てが繋がり一つであるという概念である。全ての存在は関わり合い、互いに影響を与え合っているとされる。古来より、心と体、自然、宇宙との一体感を得るために、ヨガや瞑想などの様々な試みが行われてきた。

エネルギー療法師としての経験を通じて、体のワンネス的側面を考察する。今回のシンポジウムでは、ハンドスピナーやシンギングボウルといった身近な物質を用いて検証を行う。これにより、ワンネスや波動の本質について考察し、参加者に新たな視点を提供することを目的とする。

キーワード：ワンネス, 共鳴現象, シンギングボウル, エネルギー療法, 波動

連絡先：佐藤 克巳 e7878n@gmail.com

<ミニシンポ> 新亜種乳酸菌 11-1 (東大発-サプリメント)

<講演>

ホリスティックながん治療に於ける新亜種乳酸菌の役割

帯津 良一 医師, 医学博士
帯津三敬病院 名誉院長 (日本, 埼玉)
国際生命情報科学会(*ISLIS*) 会長
日本ホリスティック医学協会 名誉会長

要旨: ホリスティックな対がん戦略のなかでの新亜種乳酸菌 11-1 の役割を症例報告を交えて報告したい。 — 143 例の経験。

キーワード: 自然免疫, 免疫活性, ホリスティック医学, 対がん戦略, 新亜種乳酸菌 11-1

<1 症例報告>

前立腺癌: 新亜種乳酸菌 11-1 とホルモン療法の効果の 1 症例報告

山本 幹男

科学平和文化財団(*SPC-F*) 国際総合研究機構(愛理 *IRI*) (日本, 千葉)

要旨: 東京大学大学院薬学研究科が開発した新亜種乳酸菌「11-1」の動物実験効果が国際論文として発表され、現在サプリメントとして販売されている。

帯津三敬病院 帯津良一医師著の単行本に血液指標 PSA 値「11-1」の約 1 カ月間の投与のみで正常値よりかなり下に激減した癌患者の例が報告されてる。

癌・免疫力増強・若返り・美容等に対する「11-1」の効果に巷で期待が持たれている。

本報では、80 歳前後男性患者の 1 例報告として、前立腺癌に対する、「11-1」経口投与とホルモン治療の効果を報告する。

前立腺癌の血液指標 PSA 値(癌の疑い 4 以上)が、市の検診で 4.01 で、造影 MRI 検査でも癌が発見されなかった。しかし約 2 年後の 2024.2.2 の PSA 値が 17.9 と前立腺がんを疑う値であった。「11-1」を 1 包 2g を 4~3 包/日を 2024.8.29 から 2024.10.5 まで経口投与した。その結果、この患者の 1 例では PSA 値がほとんど変化しなかった。

千葉市立 青葉病院にて、MRI と生検にて高悪性度(7)の癌と確定し、ビカルタミド 80mg/日等のホルモン治療が行われた。その結果 PSA 値が 2 週間で約 14、その後半年で 0.09 と正常人より低い値となった。

これらの結果、この高齢男性前立腺癌患者の 1 例の PSA 値による判定では、サプリメント「11-1」は効果を示さず、上記ホルモン療法では短期に顕著な効果が見られた。

当発表には、患者本人の了解を得ている。

当ホルモン療法は、千葉市立 青葉病院 泌尿器科 寺中 さやか 医師による。

キーワード: 新亜種乳酸菌, 11-1, サプリメント, 前立腺癌, ホルモン療法, ビカルタミド

連絡法: 山本幹男 nsnpoiri@gmail.com 090-9232-9542

<一般公演>

「地球幸福憲章」

山本 幹男 博士(医学)・博士(工学)

「地球幸福憲章」起草者代表 (日本,千葉)

要旨: 「地球幸福憲章」は、場当たりの政策でなく、数千年の指針となるべき、憲章を目指して、2012年に山本幹男が草案を出し、数十人が参加しての50回程の議論を経て起草し、高名な方々に提唱者となって頂き、2014年9月9日に日本学士会館にて創立総会を開催し、記者会見をし発表した。その後人材不足等の理由で、この普及活動が充分出来ていなかったが、戦争が多発している今こそ、本憲章が必要なので、これを再開したいので、皆様のご協力をお願いしたい。

キーワード: 地球幸福憲章,幸福文明,精神文明,生き甲斐,平和,戦争,幸福,自由,平等,博愛,民主,環境
連絡法: nsnpoiri@gmail.com 090-9232-9542

全世界の、ヒューマニスト、ロマンチスト、アイディアリスト (理想主義者)、
エコロジスト、リベラリスト、パシフィスト (平和主義者)
全員集合 「地球幸福憲章 net」へ

2014年9月9日発表版

地球幸福憲章

The Earth Happiness Charter (TEHC) テーク

— 人類はきょうだい、生物は家族、地球・宇宙は家 —

-Humanity as Brothers and Sisters, All Living Creatures as One Family, the Earth and Universe as Home-

今日までの目覚ましい科学技術の進歩と資本主義経済システムにより、今まさに物質文明が開花している。それは、人々の生活を快適にする一方で、核兵器に象徴されるように人類絶滅の危機さえもたらした。更に、地球規模の自然破壊や貧富格差を引き起こし、資源や覇権をめぐる紛争も絶えない。

本憲章は、繁栄の陰に生じた弊害や危機を乗り越え、人類と生物や地球・宇宙の永続的で輝かしい未来を創るために、物質文明と精神文明を統合し、「人類は兄弟、生物は家族、地球・宇宙は家」との根本理念に基づく「地球幸福文明」への転換をここに提唱する。

目指す「地球幸福文明」は、今日までの文明の貴重な概念である、自由・民主・平等・博愛・連帯・参画・福祉・健康・平和・自然保護・共生を成熟させ現実化する。また、個性が生かされ、生き甲斐と愛・喜びに満ち、生き生きと生きられる、皆が社会・生物・自然と共に幸福に生きる事を主眼とした文明である。

人種、民族、宗教、国家の垣根を超え、世界の人々による連帯と多様な価値観への理解に基づく、あらゆる外交、経済、文化的努力により平和を実現する。核兵器・生物化学兵器などの速やかな全面禁止、通常兵器の段階的削減、そして廃棄を目指す。

経済システムは、弱肉強食・収奪と浪費型から、民主的で公正なシステムに転換する。
福祉・健康・文化・環境・共生・平和・精神性を重視した経済活動を促進する。

この文明の実現のためには、一人一人が、全ては全体と相互に繋がり合う、掛け替えのない存在である事に気付き、先人の叡智に学び、潜在能力を開き、他への思いやりの心を深めると共に、分かち合う行為が必要である。

本憲章に賛同する世界の人々による「地球幸福憲章ネットワーク」とその「世界本部」をここに創設し、これを皆の力で発展させることにより、本憲章と「地球幸福文明」の実現をめざす。
このために、世界の多くの人々・団体と叡智の本「地球幸福憲章ネットワーク」への結集を求める。